

回復基調が続く米国景気

ポイント① 2カ月連続で失業率低下

7月2日発表の6月の米国雇用統計によれば、失業率は11.1%と5月の13.3%から低下しました。非農業部門の就業者数は前月比480万人増加しました。2カ月連続して失業率が低下し、就業者が増加したことは、5月から始まったと見られる米国の景気回復が続いていることを示しています。

ポイント② 製造業ISMは50超え

7月1日に発表された6月の米ISM（サプライマネジメント協会）製造業景況感指数は、52.6と5月の43.1から大きく上昇しました。2カ月連続の上昇であり、水準も企業景況感の改善と悪化の分岐点である50を超えました。

図2が示すように、企業の景況感は一リーマンショック時の2008、09年の景気後退の時ほどは落ち込まず、さらにかなり早く回復してきたことが伺われます。

ポイント③ 消費、雇用の回復が遅れる懸念

ただ、米国では新型コロナウイルスの感染が再拡大しており、経済活動を再開する動きが一部の地域で停止されています。このため、個人消費の回復が遅れる懸念があります。

個人消費の回復が遅れると、雇用の回復が鈍ることも考えられます。5、6月の失業率の低下は、レイオフ（一時帰休）からの職場復帰によるところが大きく、レイオフ以外の失業者は増加が続いています。

トランプ大統領の支持率は低下気味で、11月の大統領選挙での再選が危ぶまれる状況です。トランプ大統領としては、財政・金融両面から景気刺激策を続けて、個人消費と雇用の回復を後押しすることが大きな課題となっています。

図1：米国の失業率と非農業部門就業者数

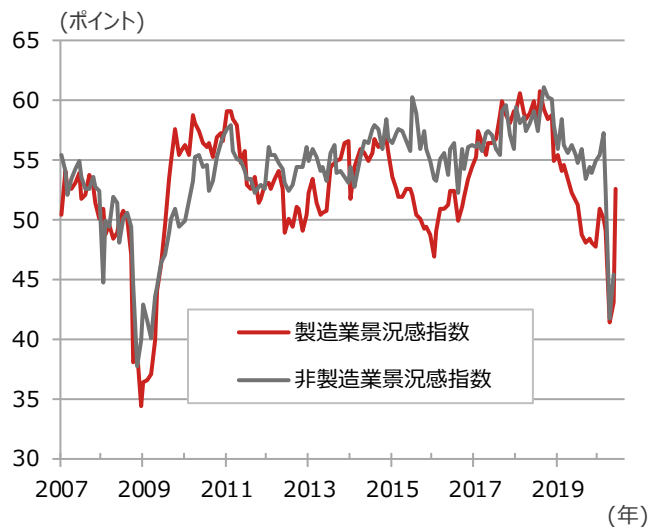
期間：2020年1月～2020年6月、月次

	失業率 (%)	非農業部門就業者数 (万人)	
		総数	前月比 増減
2020年			
1月	3.6	15,221	21.4
2月	3.5	15,246	25.1
3月	4.4	15,109	-137.3
4月	14.7	13,030	-2,078.7
5月	13.3	13,300	269.9
6月	11.1	13,780	480.0

(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：米ISM景況感指数

期間：2007年1月～2020年6月、月次



(注) 非製造業景況感指数は2020年5月まで

(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

7月6日 米ISM非製造業景況感指数 (6月)
7月15日 米鉱工業生産指数 (6月)
7月16日 米小売売上高 (6月)

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目録見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。